

- 「新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方」（以下「基本的な考え方」という。）の策定にあたっては、市民アンケート、学芸員等ヒアリングにより多角的な意見を聴取するとともに、川崎市文化芸術振興会議からの答申、パブリックコメントにより、市民や有識者から多くの意見をいただいた。
- 「（仮称）新たな博物館、美術館に関する基本構想」（以下「基本構想」という。）の策定においても、懇談会や関係団体ヒアリング等を通じて、市民をはじめとした様々な立場の方々から意見聴取を行っていくが、基本構想の検討の土台とするため、「基本的な考え方」の策定経過でいただいた市民意見等を改めて整理する。

1 市民アンケート（令和2年9月～10月）

【主な意見】

■ これまでの市民ミュージアムについて

① 博物館・美術館一般への関心度

・ 回答者の過半数にあたる62.2%が「ある」「どちらかと言えばある」と回答。20～30代は約63%、40代以上では67.0%以上（70代除く）になり、程度の違いはあるが多くの人が博物館・美術館に関心を持っている。

② 来館経験・認知度

・ 「行ったことがある」は37.8%、「行ったことがない」「知らない」は30%前後。20～30代の来館経験が30%以下で低く、20代の48.8%が「知らない」と回答。

③ 「行ったことがない」理由

・ 「具体的に何があるかわからない」54.8%が最も多く、次いで「行きにくい場所にある」37.8%、「時間がない」27.1%が続く。

④ 施設別利用率と満足度

・ 常設展・企画展の利用率（※1）は80%前後。常設展は10代と40代以上、企画展は40代以下（20代を除く）の満足度（※2）が高い。その他施設（※3）の利用率は40.3～55.8%で、10～40代の満足度が高い。

※1 利用率：「利用していない・記憶していない」「無回答・無効回答」の合計を除く比率
 ※2 満足度：「大変良かった」「良かった」の合計
 ※3 講座・イベント/映像ホール・ミニホール/ミュージアムライブラリー/ショップ・レストラン・研修室等

■ これからの市民ミュージアムについて

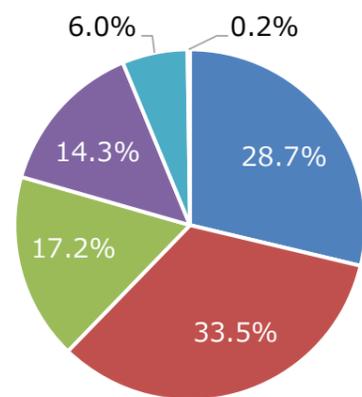
- 博物館、美術館ともに川崎市ゆかりの資料や作品の展示・収集について支持が多いとともに、子ども向けプログラムの充実も望まれている。
- 博物館は、有名な文化財の収集・展示よりも地域に根付いた活動が望まれるとともに、若年層からは体験型展示、話題性や娯楽性のある展示を望む声が多かった。美術館は、有名な作家や作品の展示への支持が多い一方で、若年層からは写真や漫画の収集、新進気鋭の若手作家の企画展が望まれているという特徴が見られた。
- その他、緑豊かな環境や心地よくリラックスできるスペース、雰囲気の良いカフェ・ショップ等は幅広い世代から望まれている。

《これからの市民ミュージアムに求める展示、資料、活動等（上位3項目）》

	博物館	美術館
あると良いと思う展示	①川崎市ゆかりの文化財や資料の展示（44.6%） ②参加体験型展示（42.3%） ③話題性や娯楽性のある展示（40.4%）	①有名な作家や作品の展示（43.3%） ②川崎市ゆかりの作家や作品の展示（42.2%） ③川崎市出身・在住の若手作家を紹介する展示（38.5%）
収集すべき資料	①川崎市の近・現代の文化財や資料（48.5%） ②川崎市の中世・近世の文化財や資料（41.6%） ③川崎市の原始・古代の文化財や資料（38.2%）	①絵画、彫刻、陶芸など（49.0%） ②川崎市ゆかりの作家や作品（39.7%） ③写真（31.7%）
あると良いと思う企画展	①川崎市ゆかりの企業との協働による企画展（42.0%） ②川崎市の歴史や文化を紹介する企画展（38.6%） ③市内の商店街や文化施設と連携して川崎の魅力を発信する企画展（33.4%）	①川崎市ゆかりの作家や作品の企画展（40.0%） ②有名人等の作品やコレクションによる企画展（32.3%） ③新進気鋭の作家や若手作家の企画展（29.8%）
取り組むべき活動	①子ども向けのプログラム（44.9%） ②川崎市の歴史・文化、民俗の調査・研究・資料収集（37.9%） ③川崎市ゆかりの企業と連携した展示やイベント（36.6%）	①子ども向けのプログラム（42.2%） ②市民向けのプログラム（34.0%） ③川崎市ゆかりの作家に関する調査・研究・資料収集（33.9%）
展示室以外であると良い機能	①心地よくリラックスできるスペース（53.7%） ②緑豊かで解放感のある屋外環境や広場（51.8%） ③雰囲気の良いカフェやレストラン、ショップ（47.1%）	

市民アンケート結果（抜粋）

【問5】あなたは普段、博物館や美術館に興味がありますか？

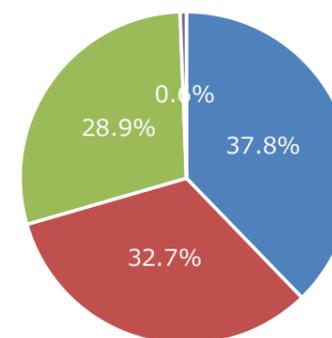


- 1. ある
- 2. どちらかと言えばある
- 3. どちらかと言えばない
- 4. ない
- 5. どちらとも言えない
- 無回答・無効回答

【問5】あなたは普段、博物館や美術館に興味がありますか？ 年齢別

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答・無効回答
1. ある	535 28.7%	64 21.0%	28 22.8%	67 27.0%	91 31.9%	90 28.8%	87 36.4%	108 31.2%	0 0.0%
2. どちらかと言えばある	623 33.5%	80 26.2%	49 39.8%	84 33.9%	100 35.1%	122 39.0%	78 32.6%	110 31.8%	0 0.0%
3. どちらかと言えばない	320 17.2%	49 16.1%	29 23.6%	45 18.1%	46 16.1%	64 20.4%	38 15.9%	48 13.9%	1 50.0%
4. ない	267 14.3%	90 29.5%	13 10.6%	42 16.9%	28 9.8%	26 8.3%	21 8.8%	46 13.3%	1 50.0%
5. どちらとも言えない	112 6.0%	21 6.9%	4 3.3%	9 3.6%	19 6.7%	11 3.5%	15 6.3%	33 9.5%	0 0.0%
無回答・無効回答	4 0.2%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.4%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%
回答数	1,861	305	123	248	285	313	239	346	2

【問6】市民ミュージアムに行ったことがありますか？



- 1. 行ったことがある
- 2. 知っているが行ったことはない
- 3. 知らない
- 無回答・無効回答

【問6】市民ミュージアムに行ったことがありますか？ 年齢別

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答・無効回答
1. 行ったことがある	703 37.8%	135 44.3%	32 26.0%	65 26.2%	105 36.8%	133 42.5%	100 41.8%	133 38.4%	0 0.0%
2. 知っているが行ったことはない	609 32.7%	47 15.4%	31 25.2%	80 32.3%	107 37.5%	105 33.5%	91 38.1%	146 42.2%	2 100.0%
3. 知らない	538 28.9%	122 40.0%	60 48.8%	103 41.5%	73 25.6%	73 23.3%	45 18.8%	62 17.9%	0 0.0%
無回答・無効回答	11 0.6%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.6%	3 1.3%	5 1.4%	0 0.0%
回答数	1,861	305	123	248	285	313	239	346	2

「新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方」策定における市民意見等について

2 学芸員等ヒアリング（令和2年8月～令和3年1月）

■ 市民ミュージアム関係者（館長、副館長、学芸員、ボランティア）に新たな博物館、美術館のあり方等についてヒアリング

《博物館、美術館共通》

- ・ 体験イベントなど企画展以外にも博物館、美術館で一緒にやれる事業を増やせるとよい。
- ・ 今後、昭和や平成の作品が歴史の対象となってくるので、博物館分野と美術館分野が絡まる機会は増えるのではないかな。
- ・ 被災資料の修復状況の公開を定期的に行っていくべき。
- ・ デジタルアーカイブ化と公開が必要。
- ・ 食など、これからは体験することが重要だと思う。
- ・ 市内団体との継続的な事業展開、市民や若手作家との交流イベント、若手作家の支援などが必要。
- ・ 民間企業とタイアップしたイベントなどをもっと行ってほしい。

《博物館》

- ・ 川崎は工業や研究の面を「川崎らしさ」としてもっと前面に出してもよいのではないかな。

《美術館》

- ・ 市民ミュージアムの9分野のように細かく分けてしまうと新しいジャンルの作品が収集できなくなる。

■ 市内文化施設職員（岡本太郎美術館、日本民家園、青少年科学館）に新たな博物館、美術館のあり方等についてヒアリング

《博物館、美術館共通》

- ・ 新たなミュージアムは、市民によって支えられ、高め合える施設であることが望ましい。
- ・ 今までの市民ミュージアムの活動は、たとえ規模が縮小したとしても引き継いで継続していくべき。
- ・ 展示のデジタルデータ化及び保管は今後課題になってくると思う。非接触型の展示のあり方も考えなくてはならない。
- ・ 扱う収蔵品に細かい区分を設けない方がよい。
- ・ 商業施設と連携することも考えられるのではないかな。
- ・ 学芸員の人材育成はとても重要で、運営の根幹となる人材を育成できるような環境にするべき。

《博物館》

- ・ 川崎の歴史、地域を担えるような博物館になると良い。
- ・ 博物館の核となる部分は、「市のあゆみ」である。

《美術館》

- ・ 川崎ゆかりの美術を紹介していく美術館になると良い。

3 川崎市文化芸術振興会議からの答申（令和3年7月）

新たなミュージアムの今後のあり方（活動）

- 1 時代の変遷とともに変わりゆく都市川崎の歴史と文化を記録し、現在も含めて未来へ継承する
- 2 誰もが心豊かに暮らせる持続可能なまちづくりに向けて、多様な価値を生み出す文化芸術を活用する
- 3 文化芸術を楽しみ、学び、体験できることで、人々の好奇心や探求心を刺激する
- 4 多彩な文化芸術に出会い、様々な創作活動や表現活動ができる環境をつくり、人々の創造性や文化的感性を育む
- 5 年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず、生涯を通じた学びの機会を提供し、多様な文化への理解を深める
- 6 文化芸術を通じ、市民や団体、他の文化施設と連携・協働した活動を展開し、多様なつながりを生み出す
- 7 教育機関等との連携などを通じて若い世代が関心を持つ事業を展開するとともに、芸術家の育成や文化芸術活動の支援を行う
- 8 様々な角度から文化芸術を支える人材、さらには、地域社会の担い手となる人材を育成する
- 9 令和元年東日本台風による被災の事実を次代に伝える

新たなミュージアムの今後のあり方（施設）

- 1 現施設でのミュージアム機能の再開は行わない
- 2 新たな施設は、浸水の恐れのあるエリアや土砂災害警戒区域等を避けた場所、利便性を考慮した場所で検討する

※ 答申では、そのほかに可能な範囲で考慮する必要があるものとして、公共交通等の利便性、緑豊かで開放感がある屋外環境などの考慮について言及されている。

4 パブリックコメント（令和3年9月～10月）

《博物館、美術館共通》

- ・ 博物館と美術館が融合した施設を整備してほしい。
- ・ 博物、美術の分野を越え、交わることにより新しい視座から表現を生み出すような取組を検討してほしい。
- ・ 新たな施設は被災リスクの少ない場所に開設してほしい。
- ・ 効率的で利用しやすい、市民にとって身近な博物館としてほしい。
- ・ 市民が何度でも足を運びたいような施設にしてほしい。
- ・ 市民が誇れる、シビックプライドの醸成に貢献するような施設にしてほしい。
- ・ 新たな施設には、学びの場、交流の場としてアトリエ機能を備えてほしい。
- ・ 身近で親しみやすく、年齢に関係なくだれでも利用できる施設にしてほしい。
- ・ 新たな場所でも、子どもや地域の方々と共生する施設を整備してほしい。
- ・ 被災してしまった収蔵品も、修復の過程とともに展示してほしい。
- ・ デジタル技術を活用した保管、展示等の取組を行ってほしい。

《博物館》

- ・ 市民のアイデンティティが形成されるような、歴史博物館としての機能を充実してほしい。
- ・ 市内各地にある文化施設をつなげるような機能をもつ、総合的な博物館が必要ではないかな。

《美術館》

- ・ 多くの人にとってアートが身近に感じられるような美術館にしてほしい。
- ・ いつでも時代を超えた表現や素材に触れられることができる機会やコレクションがあることこそが美術館の役割であると思う。
- ・ 市民の美術館、表現の場として、生活の延長にある展示を続けてほしい。
- ・ 地域の子どもたちや川崎市民の作品を展示する機能を備えてほしい。

- ・ 以上のとおり、「基本的な考え方」の策定にあたり様々な取組を通じ、新たな博物館、美術館について、市民ニーズだけでなく、現場で働く学芸員や有識者目線でのニーズ、今後の検討において求められるものが把握できたため、次のとおり大別して整理した。

5 市民意見等のまとめ

カテゴリ	まとめ		
	博物館、美術館共通	博物館	美術館
①あり方 （どんな博物館、美術館か）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館と美術館の融合 ・ 市民にとって身近かつ誇れる施設であるとともに、何度でも足を運びたいような施設 ・ 何をやっているかがわかる施設 ・ 子どもや地域との共生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内文化施設をつなげるような機能などを持つ総合的な博物館 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アートが身近に感じられる美術館
②機能（役割）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化芸術の裾野の拡大と活用 ・ 川崎らしさ（川崎ゆかりの作家・作品、工業、研究など）の発揮 ・ 学びの場、交流の場 ・ 人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川崎の歴史と文化の継承 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な表現手法の紹介
③事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な主体との連携 ・ 被災収蔵品やその修復過程の公開 ・ 資料・作品のデジタル化 ・ 体験型展示など楽しめる取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川崎ゆかりの文化財・資料の収集・展示・調査研究等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川崎ゆかりの作家・作品の収集・展示・調査研究等
④施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災リスクの少ない場所 ・ アクセスの良い場所 ・ 緑豊かな環境や心地よくリラックスできるスペース 		